

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

病院長名	錦見 尚道
	453-8511
所在地	名古屋市市中村区道下町3丁目3番地
交通案内	地下鉄東山線「中村日赤」駅下車 市バス・名鉄バス「中村保健センター南」下車

□ 病院の特徴

当院は名古屋市内西部に位置し、一日平均外来患者数約 1,400 名、病床数 852 床、職員数 1,500 名と、この地域の基幹病院の一つです。救命救急センター、小児医療センター、総合周産期母子医療センター、造血細胞移植センター、緩和ケアセンター、化学療法センターを運営するとともに、神経疾患、循環器疾患、消化器疾患、呼吸器疾患などの診療でも専門科の壁を越えた医療を実践するシステムが整備されており、活力にあふれています。どの領域においても潤沢な症例数と多数の剖検症例を有しており、急性疾患から慢性疾患まで稀少疾患を含む豊富でバラエティーに富んだ症例を経験することが可能な病院です。専攻医が思い切り腕を振るうことができるアクティブな研修環境は当院の伝統です。

□ 研修プログラムの特徴

産婦人科専門研修プログラム

当院の産婦人科は、これまで地域医療を守りながら多数の産婦人科医師を育ててきました。産婦人科専門医を育成する当プログラムとしては、以下の特徴を持ちます。

- ・高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群。
- ・サブスペシャリティー領域までカバーする、豊富で質の高い指導医。
- ・質の高い臨床研究、学会発表、論文作成の指導。
- ・ワークライフバランスを重視し、出産後の時短勤務など労働環境を配慮。

研修期間は3年で、その間基幹施設である当院の他に2つの連携施設で研修します。そのうち1つは地域医療を経験できる連携施設で行う必要があります。当プログラムに属する5つの連携施設は、いずれも豊富な症例数を有する地域の中核病院ですが、当院ではあまり経験できない症例も経験することができ、幅広い産婦人科の臨床を学ぶことができます。

当院の特徴は、周産期、腫瘍、生殖医療の3つの柱がしっかりと揃っていることにあります。周産期は総合周産期母子医療センターとして、20年以上にわたり愛知県の周産期医療の中心的役割を担ってきました。腫瘍も多数のがん症例の手術・化学療法などを行っています。また、良性疾患を中心に内視鏡手術も積極的に行っており、最近では手術件数が大幅に増加しています。生殖医療では体外授精のほか各種の研修が可能です。その他には新生児科、病理部、放射線科など他科との合同カンファレンスを行うなど、知識の拡大や診断技術の向上も図っています。また豊富な症例の経験をもとに、学会発表や論文作成も積極的に行っています。



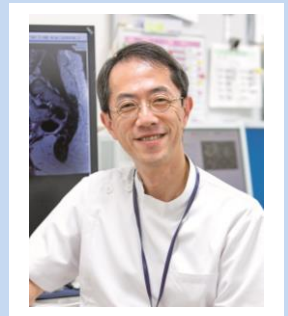
□ 主な連携施設

静岡赤十字病院
一般社団法人日本海員掖済会 名古屋掖済会病院
愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院
公立陶生病院
伊勢赤十字病院
藤田医科大学ばんだね病院

□ メッセージ

プログラム責任者（総合周産期母子医療センター長 水野 公雄）

当院産婦人科は、周産期部門では、総合周産期母子医療センターに指定されているため、年間 200 件以上の母体搬送を扱っている他、正常分娩も年間 1,000 件以上あります。腫瘍部門は年間 170 件以上の婦人科癌手術を行い、そのうち 20 件ほどを内視鏡手術で行っています。内視鏡手術は、最近増加傾向で 300 件近くに及びますが、専攻医の修練に必要な良性疾患の開腹手術の多数行



っています。手術件数は産婦人科全体で年間 1,000 件ほどです。生殖医療では、体外授精-胚移植を中心に、顕微授精、受精卵凍結保存、精子凍結保存などの他、がん治療を予定している若年患者の卵子凍結保存なども行っています。当直は、2 名体制で若手と中堅以上の医師の組み合わせとしており、若手医師は困った時はいつでも上司医師に相談できるため、安心して当直できる環境にあります。また、病院の方針で当直明けの翌日は休むことが義務づけられています。臨床の現場では若手が中心となって積極的に診療に取り組んでもらい、中堅以上の医師が若手を指導、サポートしていく体制が完成されています。オン・オフのはっきりした環境で仲良く仕事をしている様子をぜひ一度見に来てください。

□ 募集要項

・採用予定人数	4 人
・給与/月額	3 年次：444,245 円
・当直回数/月	4-5 回
・当直料/回	勤務体制に応じて支給
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課 電話番号 052-481-5111（内線 54145） Eメール kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp